

すて〜じ通信



発行 平成24年8月10日 第 6号

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町334番地9 あい・ぷらざ1F

社会福祉法人北海道社会福祉事業団

胆振日高障がい者就業・生活支援センター すて〜じ

Tel / 0142-82-3930 fax / 0142-82-3933

E-mail / stage@dofukuji.or.jp

福祉的就労から一般就労へ

～平成23年度福祉施設利用者の一般就労に関する実態調査結果から～

先日、8月8日に開催された東胆振・日高地区障がい者雇用支援地域合同会議の資料として、北海道における「平成23年度福祉施設利用者の一般就労に関する実態調査結果」が配付されました。

この資料によりますと、平成23年度の福祉施設から一般就労への移行者数は535人で、平成17年度実績の105人と比較すると、6年間で約5倍の大きな伸びを示しています。

その内訳をみますと、男女別では男性が71.2%と圧倒的に多く、年齢別では20歳以上40歳未満の青・壮年期が全体の約7割を占めています。

障害種別では知的障がい者50.3%、精神障がい者37.9%、身体障がい者10.5%と、ここ数年精神障がい者の占める割合が高くなってきています。また調査対象者全体に対する発達障がいの有無は15.1%で、約6人に1人が発達障害を重複しているという結果になっており、徐々にではありますが、発達障がい者に対する企業の受け入れが進んできていることが分かります。

雇用形態等については、フルタイム25.9%（正社員11.0%、準社員等14.8%）、非常勤等68.0%（週20時間未満13.1%、週20～30時間未満25.2%、週30～40時間未満29.7%）、短期雇用・季節雇用5.4%となっており、短時間労働や短期雇用・季節雇用の割合が大きくなって来ています。この背景には、平成22年7月に障害者雇用率制度が改正されて、週所定労働時間20時間以上30時間未満についても実雇用率の算定対象となり、フルタイムでの労働が難しい精神障がい者や重度の知的障がい者などにも雇用の機会が拡大されたという大きなメリットもありますが、一方では企業側の事情による雇用形態の多様化の中で、フルタイムで働きたいという人についても、パートタイムなどの短時間労働に留めおかれてしまうという場合も多く、障がい者の正社員への道は一層厳しくなって来ているように思います。

事業所（施設）別移行者数については、就労移行支援事業所60.4%、就労継続支援A型事業所10.5%、就労継続支援B型事業所27.3%と就労移行支援事業所が全体の約6割を占め、事業所個々にばらつきはありますが、トータルでは当初の目的に合わせて就労移行の中心的な役割を果たしているようです。しかしその一方で、就労移行事業所の今後の方向については、今いる利用者が移行してしまうと、他に新たに利用したいという人が少なく、この事業を廃止して生活介護や就労継続B型など他の事業に変更せざるを得ないという声も多く聞かれます。

運営法人別に就労移行実績数を見てみますと、社会福祉法人49%、NPO法人32%、株式会社8%、医療法人5%、その他社団・有限会社・合同会社・企業組合等6%となっており、かつてのように社会福祉法人だけが独占しているのではなく、今は多様な団体によってさまざまな事業展開が行われているようです。

平成25年4月より、障害者法定雇用率が民間企業は1.8%から2%（対象規模50人以上）へ、行政機関等は2.1%から2.3%（対象規模44人以上）に引き上げられます。これを契機に、福祉的就労から一般就労に、更なる障がい者雇用の拡大が図られることを期待しています。

センター長 小林 繁市

『平成24年度障がい者就労支援ネットワーク強化・充実事業』

この事業は平成19年度から受託・開始した事業で、当初の名称は「障がい者就労支援ネットワーク構築事業」でしたが、平成22年度より上記の名称に改称されています。この事業は、(1)関係機関との「顔の見えるネットワークづくり」(2)「情報の共有化」が柱になっており、6年目を迎えた今年、就労支援の現場等において、ある一定度の効果が見えてきたように感じます。今年度におきましてもそれぞれの機関による「社会資源・情報」を有効的且つ効果的に活用し、更なるネットワークの強化・充実を図り、圏域における障がい者の就労支援の向上に努め、障がい者雇用の拡大を推し進めていきたいと思っております。

この事業では地域に根ざした支援事業所や行政、関係機関に参画頂き「障がい者雇用支援地域合同会議」を設置しております。昨年度までは胆振、日高圏域を2地区に分けて設置してましたが、今年度については地域の社会資源、地域間の利便性等に考慮し、西胆振地区、東胆振地区並びに日高地区の3地区に分けて設置しました(今年度の事業計画、各地区の構成機関・委員等につきましては、当センターのホームページ(<http://www.dofukuji.or.jp/stage>)に掲載していますので一度ご覧になって下さい。

〈今年度の合同会議の予定事業〉

- 第1回地域合同会議 西胆振地区 6月18日(月曜日) 登別市市民活動センターのぼりん(出席者:25名)
東胆振地区 6月25日(火曜日) 苫小牧市市民活動センター(出席者:18名)
日高地区 6月26日(水曜日) 新ひだか町地域交流センター(出席者:18名)
- 第2回地域合同会議 東胆振・日高地区→8月8日(水曜日) 苫小牧港湾合同庁舎(出席者:29名)
西胆振地区→8月28日(火曜日)～室蘭市 ※いづれも研修会を併催します。
- 第3回地域合同会議 全地区合同開催→10月下旬～苫小牧市で開催予定
第4回地域合同会議 全地区合同開催→25年2月下旬～苫小牧市で開催予定

『在職者の集い』

今年度第1回目の『在職者の集い』を開催しました。障がいのある方の中には、「自分達の働いている姿は会社の方にどのように映っているのか不安」「きちんと仕事は評価されているのか」と言うような不安を抱えている方が少なくありません。今回は「障がい者の就労について事業主が思うこと」をテーマに、講師として、実際に障がい者を雇用している、西胆振心身障がい者職親会副会長河原文博氏をお招きし、講師が直接本人さんに質問し答える方法で進み、気が付けば30分をオーバーしていました。当日参加された方の感想をいただきました。

～参加者の感想～

7月26日(木)午後7時からサロンにて「在職者の集い」があり、10名が参加しました。職親会副会長の河原さんに講師に来ていただき、仕事での悩みなど話しました。今回参加した人は長年働いている方が多く、職場での悩み等ある人ない人それぞれでした。河原さんは「ありがとう」という感謝の心を忘れないで下さいと言っていたので、私も「ありがとう」を忘れないようにしたいと思います。今回はとても勉強になりました。……大澤 昌子



～編集後記～

いよいよ夏本番、今年も暑くなりそうですね、くれぐれも熱中症にはご用心を！今年の北海道は計画停電の実施も検討されてます。実施されないように日頃からこまめに節電に気をつけたいと思います。

夏休みに入り街中では子供達の元気な声が聞こえます。海水浴、キャンプ、花火、時々宿題と、子供達にとっては大忙しですが・・・毎年この時期には海の事故、山の事故と新聞紙面を埋めてます、事故に遭わないように、怪我をしないように、悲しい夏休みになりませんように・・・左の写真は当センターの2Fに児童サービスがあり、そこを利用している子供達に短冊を書いていただき飾り付けました。みんな素敵な願い事を書いていましたが、私が一番気に入ったのは、さくらちゃんという女の子が書いてくれた“おきくなったら、おかあさんになりたい”でした。さくらちゃん、きっと願いは叶いますよ

(メタボから脱出したい・・・K)

